

令和2年度 第3回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2020年（令和2年）11月4日（水）
午後4時30分～午後6時

2. 開催場所 藤沢市分庁舎2階 活動室1・2

3. 出席者

(1) 委員=22人

小林 邦芳, 関根 颯, 大島 崇弘, 木原 明子, 吉田 展章,
齊藤 祐二, 秋山 美紀, 島村 孝子, 児玉 文卿, 栃本 親,
澁谷 晴子, 菅原 健介, 伊豆丸弥生, 市川 勤, 田場川善雄,
川村 哲, 竹村 裕幸, 川原田 武, 西山 千秋, 和田真知子,
伊原 敦, 池田 潔

(2) 傍聴者= 0人

4. 議題等

1 開会

2 議題

(1) 藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた庁内検討委員会での検討内容について

＜資料1＞令和2年度第3回藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた
庁内検討委員会 次第・資料（抜粋）

(2) 意見交換

・藤沢型地域包括ケアシステム推進に向けた取組と今後の方向性について

＜資料2＞短期目標に向けたロードマップの総括及び2025年に向けた
ロードマップ（案）

＜資料3＞短期目標に向けたロードマップの進捗状況及び令和2年度の取
組の方向性

＜資料4＞高齢者個別訪問実施報告

(3) 藤沢型地域包括ケアシステムにかかる周知・啓発について

＜当日資料＞リーフレット 支えあいの地域づくり（案）

II. 会議の概要（議事要旨）

議題 1. 藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた庁内検討委員会での検討内容について

〈事務局説明〉

→質疑なし

議題 2. 藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた取組と今後の方向性

〈事務局説明〉

〈質疑〉

渋谷委員 相談支援における発信のしやすさについて、高齢者の方は意外とスマホ、LINE を使っている。SNS を使った情報発信をすぐに取りかかってみてはどうか。高齢者がアクセスするのは難しいが、LINE で定期的に流すなど。

担い手について そもそも地域でボランティアに参加したくない、地域で活動したくない人がいる。そういう状況を把握しておく必要があるのでは。

事務局 インターネットやスマホに親しんでもらう目的で、通信会社、企業と協力した高齢者スマホ教室などの取組も、あわせて進めていく。

ボランティアの参加意向については、アンケート分析すると、「きっかけがない」という方もいる。40代、50代に向けて、生涯学習分野と連携した取組も併せて進める必要がある。

川村委員 担い手に関連して。「特になし」と回答する方が多いが、趣味活動を仲間内で集まっている方がかなり多い。地域では、自治会活動以外にもスポットを当てて、参加したら楽しむ視点でアピールしていけたら。そういった視点も入れて、閉じこもらないように、そこからどう活動に参加していけるかが大切。

事務局 地域の縁側、地区ボランティアセンターなど、行政がからんでいる取組以外も把握し、連携していく。活動参加のきっかけづくりを行っていききたい。

関根委員 資料1のヒアリング結果(重点テーマごと)については、関わる課を一緒に入れていただきたい。

テーマ3に関連して、福祉と保健所が分かれていることを踏まえて、「健康づくり・生きがいくくり」に関しては別々の課が担っており、意思疎通が図れていないという現状がある。医療・介護データの一元化などを取り組む際、組織改正も踏まえて、行政がどう進めていくのか、聞きたい。

事務局 連携できている部分と、連携できていない部分がある。12月市議会で組織改正について報告する予定。保健医療の推進のための庁内連携がポイント。

どういうふうに一元化できるか、組織上一つの課で行うのは難しい、連携の仕組みは別途考えていかなければいけない。組織をあげて、連携をとっていく必要がある。

関根委員 重点テーマ1の相談支援体制づくりと、福祉と保健・医療との関連の話は連動している。本庁と保健所がバラバラでは全く進まない。医療・福祉・保健の担当が集まった部署が必要ではないか。

西山委員 藤沢型も5年が経過しているが、今後5年間のことを考える中で、5年後を見据えるのも難しいので、2、3年で中間評価を行うことが必要。

「検討」「連携」という言葉が多い。連携をとることは難しい、そのためには何が必要か、具体策が常にないといけない。福祉保健医療との連携も、具体策を描くことが必要。

計画自体は、ここに具体的に取組を落とし込めばよいが、コロナウイルスの影響の視点を入れる必要がある。テレワークで自宅にいる人材の活用を。災害時も含めて。

まちの保健室事業の詳細は何をするところなのか。

事務局 健診で要注意となった方や、健診結果を受けて心配な方を対象に、専門職が居場所事業に出向いて、健康・医療に関する相談を行う。

《資料4の説明 高齢者の個別訪問の実施報告》

85歳以上の訪問を実施。元気の秘訣、地域とのつながりの大切さがわかった。また、アウトリーチの大切さもわかった。今後の地域包括ケアを推進するためのヒントをいただいた。

《資料4-2 13地区の特徴》

テーマ④～⑥について

川原田委員 民生委員の欠員という問題がある。民生委員に手を挙げてくれる方がいない。自身の地区でも2名の欠員がある。なり手がいないということを危惧している。

テーマ⑤について 自ら声を挙げる方はまずいない。声を出しやすい環境づくりが必要。

事務局 民生委員について、今回は特に欠員が多い、なかなか埋まらない状況。次回に向けて、早めに動けば解決につながるのか、定数の在り方を見直し、民生委員以外の力を借りるのか、検討。センター・公民館とも意見交換をしながら、早めに動きだしたい。協力員制度など様々な対策が考えられているが、抜本的な解決につながらない。総合的に考えていきたいので、ご意見いただけたら。

事務局 孤立に関しては、地域でのつながりを持ち、趣味などを通じて誰かと関わる「見守られ上手」になり、心配な時、周りが気づく関係性が作れば。

企業・商店街が見守りに参画するという協力体制が重要。

伊原委員 民生委員の関連で、課題が多い中、社協のCSWが民生委員の後方支援を担い、負担軽減にもつながれば。ひきこもり・孤立防止の関連では、自分から発信はできない、当事者自身に困り感がない状況では、様々なケースに対応した柔軟性、様々な方向からの取組が必要。

児玉委員 善行地区は、欠員が出ていない。地域の諸団体の情報が多くあり、情報をもとに、昨年取り組んできた。

今後の担い手については、不安が多い。民生委員は大変なこともあるが、大変なイメージを押し付けると人が集まらない。楽しみややりがいを伝える努力が大事。

社会的孤立について、民生委員は、生活保護を受けた方へのアプローチはしていないが、社会的孤立の要因を抱えているため、そういう視点も大事

田場川委員 防犯パトロールについて、懸念。担い手が高齢化しており、メンバーが集まらない。定年後の男性の動向がつかめないので、アプローチが必要。

事務局 担い手獲得に向けて、世代に応じたアプローチが必要。定年前後の動向はつかみにくいが、企業に向けて、定年間際の方に向けたレクチャーや声かけも効果あるのではないかと考えている。

池田委員 地域共生社会を進めていくうえで、地域の位置づけは大きなポイント。制度に基づき行政が行う事業が、地域の実態に合っていないことがあり、これからは、制度と地域のニーズをどう合わせていくかが取組のポイント。

地域の人材不足は大きな課題だが、様々なアプローチを行っている。善行地区の「ちょいボラ」など。連携についても、地域で具体的に何をやっていくかを考えなければいけない。

藤沢市の組織改正に関わる部分についても、地域共生社会ということを見ると、医療・保健・市民自治・企画が一つの部になるのが望ましいが、行政としての仕事を進めるうえで、別の課題も出てきてしまう。一つの部として大きくなりすぎることのないよう、役割分担しながら、組織の中に連携を進める部署・会議体を設けていく必要がある。

【意見：Zoomのチャット機能から】

大島委員：ロードマップ テーマ③の表現について「薬の飲み方」→「薬の適正利用」が望ましい。

菅原委員：たらいまわしの現状を改善するためには、それぞれが責任をもった

「連帯」が必要。具体的な取組を進めるプロセスを、地域ごと、関係者ごとに進める必要がある。

秋山委員：それぞれのテーマごとの事業については、アウトプットベースではなく、総合的なアウトカムにどうつながっていくのかを評価すべきもの。

テーマごとに割れるものではなく、良い意味で重複しているもの。地域さんかく塾は、「健康づくり・生きがいくづくり」だけでなく、担い手養成にもつながる。複数の効果にまたがるものを実施していくことが、重要では。

秋山委員：ポピュレーションアプローチだけでなく、ハイリスクアプローチにつながる、アウトリーチを行う視点を盛り込む必要がある。

菅原委員：市の職員が、地域包括ケアシステムの推進に注力できる組織体制が必要。

議題3．藤沢型地域包括ケアシステムにかかる周知・啓発について

《事務局説明》

リーフレットいただいた意見を踏まえ、修正点を反映している。

その他

《パブコメ案内》

《次年度の推進体制について》

齊藤委員 委員にお願いしていた「大規模災害に備えて課題チェック表」について、期限を11月18日まで延長。

昨年度、誰も取り残さない災害対策として研修会を進めてきた。障がい当事者・家族、事業所に向けて、それぞれの立場でアンケートを行い、集計している。

地域とのつながりを意識してほしいということもあるので、「地域としての立場」でご意見をいただきたい。

以上